



往還通信

第125号

R6.11.11発刊

ホームページ <https://miekenjukai.com>

E-mail oukan@ccnetmie.ne.jp



社会福祉法人 三重健寿会

特別養護老人ホーム 往還

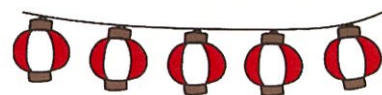
〒510-8103 三重県三重郡朝日町大字柚字熊之川564番地

Tel (059)377-6011 Fax (059)377-6001



往還祭り

令和6年10月26日(土)



令和6年 往還祭りを終えて



往還祭・祭り委員長 館 大輔

昨今のコロナ禍の為、ご家族様をお招きする往還祭りは5年ぶりとなりましたが、10月26日の往還祭りには、お忙しい中多くのご家族様に参加していただきありがとうございました。

祭り内でのイベントやユニットでのゲーム等では面会の時とは異なった普段と違う利用者様の様子を見て頂けたのではないかと考えております。

大相撲往還場所では白熱した歓声や表情を利用者様がされておられ、また外部よりお招きした伊勢朝日音頭保存会の皆様による炭坑節などの踊りに合わせて、利用者様が一生懸命に、楽しそうに踊られており、手前味噌ではありますが職員一丸となり開催に取り組んだ甲斐を感じております。

このような往還祭開催が行えたことは、日頃の利用者ご家族様の当施設への厚いご協力、ご理解の結果であると感じております。

また、無事に祭りを終えることが出来たのも、祭り委員会・副委員長や委員をはじめ事務所職員、看護職員、各ユニットリーダー、各ユニット職員、サポート職員の皆が頼りない委員長を手厚く手助けくれたおかげであると、情けなく思いつつこの場で感謝を伝えたいと思っております。皆様ありがとうございます。私見が入ってしまいましたが、職員各々が今後も利用者様の立場に沿った介護サービスを各職種一丸となって行っていきたいと考えております。





闘う、或いは、闘うには対象を知ることが大切である。今回はポーポワール書「老い」を紹介する。

ポーポワールは1949年に出版された「第2の性」にて有名である。1970年に出版された。有吉佐和子「恍惚の人」とほぼ同じころである。現在は読書家の間にて「老い」を論じた古典書籍と位置付けされている。時代背景が現在と異なるのでそれを前提にして読むべきと思う。

老いは我々を不意に捉える。当人自身よりも周囲の人々に、より明瞭に表れる。生理的、心理的、社会的、文化的という四つの次元がある。生理的には「歯、眼、生殖」、社会的には定年がはっきりしている。文化的とは家族がコリ-での変化で「おじいちゃん」「おばあちゃん」と呼ばれ孫ができた時に明確になる。心理的の老いは他の次元に追いつかない。心はいつまでも年をとれない。老いた自分を肯定できない。

老いの自認は男女で違いがあり、男性よりも女性にとってより受け入れづらい。男性の立場からすれば、女性の境涯は色情の対象であり、老いて醜くなると社会の中に割り当てられた場所を失う。もはや性を持たず少女と同様に食事上のダブ-を免除され、もろもろの禁忌は取り外される。例えば日本の上・中流階級の婦人は極めて厳格に生活を規制されていたが、晩年、夫と子どもから解放され「やっと自分自身のことに配慮できる身となる」熟年離婚して「しばしば若やいだ老いを享受する」

老いは他者の経験だと言うが、その他者は自分自身である。

社会では、若さに価値がある場合と老いに価値がある場合がある。老人の地位は近代化の程度に反比例する。社会の変化の速さに反比例する。大家族ほど地位は高く、個人主義化で低くなる。

学者は40歳で既に老いている。画家や音楽家は「年月とともに進歩する」ゲーテは講演中記憶が喪失し20分以上も黙ったままで再開した。朝しか仕事せず、旅行もあきらめ、日中はしばしば居眠りをしていた。「So what」(だからどうした)

歴史も文学も、年取った女性の性愛について確実な証言を我々に残していない。この主題は、年取った男性の性愛よりもさらにいっそうタブ-視されている。

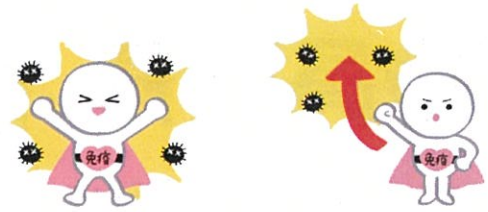
「かつかつの余命」を与える高齢者施設は救済院と施療院が合体したようなところであり何百人も収容されている。部屋は大部屋。規則は厳しく、ユニホームを着せられ、面会は稀で、外出は制限される。完全に受動的な存在として扱われ、老人たちは急速に人間性を失う。

家族と一緒にいる場合、父は自分と権力関係が逆転した息子に引け目を感じ、一方息子は父を粗末に扱う。娘たちは母親にしばしば怨念を抱いており、彼女たちの態度は息子の父親に対するそれと類似している。夫婦では、一般に女性は夫が退職することを恐れている。退職した夫は自分がうるさがられていると引け目を感じている。家族だけが扶養の義務を持つと言いながら家族の中の老いがちっとも幸せでない。周囲には問題行動に見えても、本人には理由がある。多くは抗議的性格をもつ。近親者に対して遺恨から攻撃あるいは自己防御の行為である。徘徊について、自分の家で満足な役割を与えられないので家族にも告げずに彷徨する。彼は何を求めているかを知らないが、何かを探している気持になる。こうして家族に自分だけでやっていけると示した彼らが心配していると考えて喜ぶ。

富裕層の高齢者施設は理想郷として扱われていたが、そこに住む人々は背水の陣で家を買った(入所した)のでそこに居残るしかない。やり直せるとしたら同じ選択をするとは限らない。

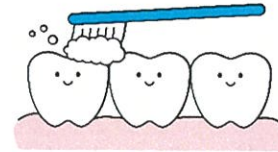
老齢期において人間が一個の人間であり続けるために社会はいかなるものであるべきかが課題である。

最後に、最近、「life span 老いなき世界」との書籍を知った。3年ほど前に出版されている。これには老化は遺伝子の伝達エラーが原因でこれは治療できるという。いつか紹介したい。



口腔ケアで免疫力アップ

人の免疫は、害を与える微生物などに対して働き、病気を軽く済ませてくれたり、発症を未然に防いでくれたりします。病気の発症は、微生物の悪さをする力と免疫力のバランスが崩れた時に生じるのです。このバランスを免疫力優位にしておく必要があります。



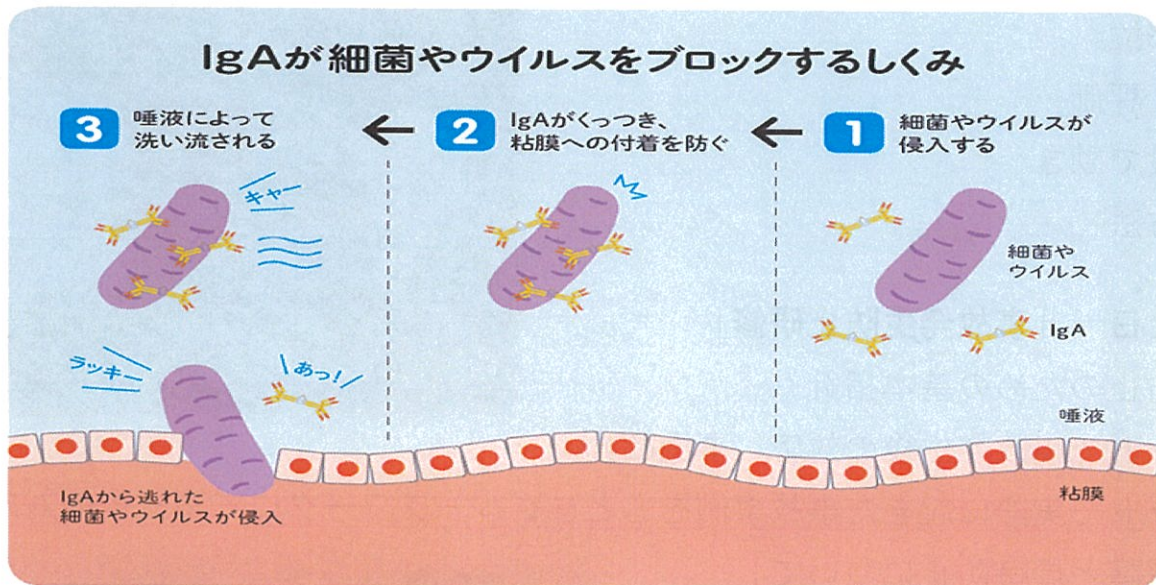
その方法の1つが、口腔ケア（歯磨き）です。

口の中には、細菌が沢山いるのをご存知ですか？

常在細菌といって、体を守る働きを示すものもありますが、悪さをする細菌もいます。この悪さをする細菌やウイルスを減らすことが大切です。

細菌の塊であるプラークは、歯磨きをしないと落とすことはできません。口の中には、もう1つ細菌の塊があります。それは舌の表面についた舌苔です。これらの細菌を口腔ケアにより減らすことで、口腔の免疫が十分に働くことができるようになるのです。

口腔の免疫は、IgAという抗体が働き、害を及ぼす微生物を排除してくれる粘膜免疫というシステムで実行されています。しかし、このIgAも口の中が汚れていれば、敵が多すぎて、防衛が難しくなってしまうのです。



もう一つ大切なことは、歯周病を放置し重症化してしまうと、歯周ポケットという深い溝ができてしまい、プラークや舌苔のように細菌の温床ができてしまいます。歯周ポケット形成の原因となる歯周病原細菌は、さまざまな分解酵素を持ち、それを口腔内にまき散らし、ウイルス感染を進めてしまうことも分かってきました。

口腔ケアの大切さを理解していただき、歯科疾患を進めないために歯科医院での定期的なチェックをするようにしましょう。



職員研修



7月11日 「身体拘束適正化のための研修」

- ・ 身体拘束の定義
- ・ 禁止対象となる具体的行為例
- ・ 身体拘束を行なうことに伴う弊害
- ・ 身体拘束がやむを得ない手段として認められる3条件
- ・ 身体拘束を実施しないために心がけること
- ・ グループワーク 事例の場合、職員としてどう対応したらいいか



8月8日 「褥瘡対策に関する研修 予防・悪化させないケアと知識」

- ・ 褥瘡とは
- ・ 褥瘡の発生要因
- ・ 褥瘡発生の2大要因は「圧力」と「ずれ力」
- ・ 褥瘡の分類
- ・ 好発部位
- ・ リスク評価
- ・ 当施設で動き
- ・ 予防方法



9月12日 「事故発生防止研修」

- ・ 事故防止のための基本指針
 - ・ ユニットで事故発生後の対応 事例紹介
 - ・ ユニットで実際に起きた事故事例をもとにグループワークにて事故後の対応検討
- 「権利擁護と虐待防止について」

- ・ 権利擁護とは
- ・ 虐待防止法とは
- ・ 虐待の種類
- ・ 身体拘束禁止規定
- ・ ワーク（個人・グループ）
- ・ 当施設での虐待に関する動き

